

# 【BRIDGE施策2】ネイチャーポジティブ経済移行戦略を踏まえた、各セクターにおけるルールメイキングと市場創造のための戦略検討促進事業

## 【研究開発プロジェクト名】ネイチャーポジティブな一次産業と流通・消費にかかる技術市場・ビジネススキームの構築に向けた戦略検討

【研究開発期間】令和6年度

【研究開発代表機関名/研究開発責任者】いであ株式会社 幸福 智

【概要】自然資本と関連が強い一次産業を通じた自然資本管理手法や自然観測・再生技術等において、ランドスケープアプローチとの親和性及び国際優位性を整理し、市場化に向けた戦略を立案。

### 【背景・課題】

- 一次産業は自然資本との結びつきが強く、EUDR等の自然資本に関連する輸入規制が導入された場合、国際競争力に影響が出る可能性がある。
- 一次産業に関連する周辺産業(レストランチェーン等)が海外の原材料を調達する際の優良な原材料を“買い負けない”仕掛けや日本の一次産業の優良サプライヤー化による“売り負けない”仕組みづくりが重要。

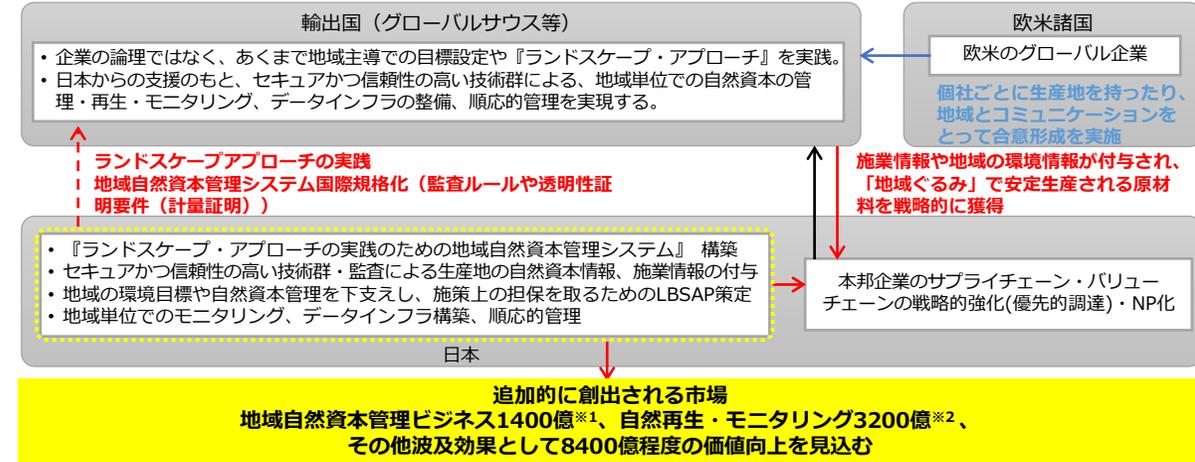
### 【実施内容・成果】

- 我が国の**自然資本観測・評価・予測技術だけでなく、緻密かつ大規模に整備・運用されてきたデータインフラ等が国際的にも優位性を有している**ことを明らかとなった。特に水産・海域では有力な技術や特許が多く、**環境DNAや大規模データベース、サンゴや藻場の再生、ホバリング型AUVによる環境DNA分析や資源量把握の技術は高い国際優位性を有している**。また、山林では急峻な地形における観測・再生技術等は欧州に少なく、特許も多いことが明らかとなった。
- これらの技術を活かした、**セキュアかつ信頼性の高い情報群及び実績の高い技術群として『地域自然資本管理データ基盤』の確立を“売り負けない”ための戦略として提案**。地域レベルで運用するための技術や要件(人材、組織等)についての情報を整理し、人材・組織・ファイナンスを含め『**地域自然資本管理システム(ビジネス)**』としてパッケージ化し、本システムの国際展開により、国際市場を創生する戦略を立案した。

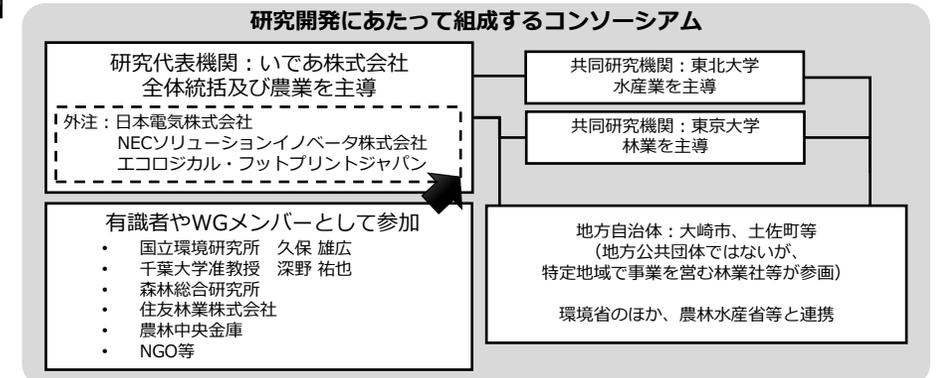
### 【今後の展望】

- 設計したデータ基盤を実際に構築、パイロット事業を実施し、入力データの様式などを標準化する。
- 公共による自然関連データ取得の拡大、一次産業従事者によるデータ取得・提供とマネタイズを推進。
- 関連産業領域との対話を通し、国内での主流化を進め、2年程度の時間差をもって国際展開をはかる。

### 【研究成果概要】



### 【実施体制】



\*1 農林水産業の施業情報の情報管理・デジタルソリューション運用・シミュレーション及び現地観測による地域マネジメントから試算  
\*2 環境DNA300億(概数積算)、AUVによる資源量把握300億(概数積算)、森林再生・水産資源増のための藻場再生・サンゴ礁再生等2,600億(水産基盤整備事業予算額を参考として試算)